

平成29年度 第41回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

5

男子 女子 2回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 グリーンアリーナ神戸 A コート

県立福井商業高等学校	20	<table border="1"> <tr><td>10</td><td>—</td><td>11</td></tr> <tr><td>10</td><td>—</td><td>12</td></tr> <tr><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr><td>—</td><td>—</td><td>—</td></tr> <tr><td colspan="3">7mTC</td></tr> </table>	10	—	11	10	—	12	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7mTC			23	浦添商業
			10	—	11																	
			10	—	12																	
			—	—	—																	
			—	—	—																	
—	—	—																				
7mTC																						

2回戦、北信越ブロック3年連続18回目出場の福井商業と1回戦接戦を制した九州ブロック浦添商業の対戦となった。福井商業⑩番速攻で先制点をあげる。直ぐに浦添商業⑦番も得点を入れる。前半

15分5対4 福井商業1点のリード。福井商業は3人の選手のディフェンスとオフェンスの交替で

攻守のリズムをつかもうとする。福井商業⑬番が得点を決めるが、浦添⑦番も得点を決め前半25分

8対6 福井商業リードを守りきる。浦添商業は速攻を決め、前半27分8対8の同点となる。浦添②

番のミドルが決まるも、福井商業④番のポストプレーが決まる。前半残り33秒で浦添商業T.O。

また、浦添②番がミドルを決め逆転する。すかさず、前半残り12秒で福井商業T.O。前半10対11

で終了。浦添商業1点のリードとなる。後半開始早々福井商業⑩番が得点を決め同点となる。後半

5分、福井商業④番サイドシュートを決め、再び逆転する。その後、福井商業リードのまま、試合が

続くが、浦添商業⑬番のポストプレー、速攻で③番のシュートが決まり、浦添商業再び逆転する。

後半25分 20対18 になり、福井商業T.O。波にのる浦添商業が、その後も得点を重ねる。

残り1分で浦添商業T.O。20対23で試合終了。浦添商業3回戦に進出する。

30年 3月 25日

記載者氏名 中野 健

平成29年度 第41回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

女14

男子 ・ 女子 2回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 加古川市立総合体育館 コート

チーム名	総得点		総得点	チーム名
府立洛北高等学校	<u>34</u>	[17 ー 4 17 ー 8 ー ー ー 7mTC	北海道函館工業高等学校
]	<u>12</u>	

大会二日目第三試合は3年連続26回目の出場となる洛北高校5番瀧石の鋭いカットインか

らのシュートで先制。対する2年ぶり4回目の出場となる北海道函館工業高校は堅固なディフェ

ンスを随所に見せるものの、洛北高校10番大樋の素早い速攻からの2連続得点などでリードを

少しずつ広げられる。洛北高校はこのまま5番瀧石を中心に6連続得点を記録するなど、持ち味

の速攻を駆使して、スピードに乗ったプレーで終始試合をリードし、17-4。洛北高校の13

点リードで前半を終了。

後半も前半の流れをそのままに洛北高校の得点が続くが、北海道函館工業高校5番斉藤の連続

得点で少しずつオフェンスに勢いが出てくる。しかし、前半よりプレッシャーを強くした洛北高

校に苦戦。12分・16分と立て続けに退場者を出し、リードを広げられてしまう。その後北海

道函館工業高校4番小田のシュートなどで反撃するも、洛北高校が最後まで積極的なディフェン

スからの速攻で点を重ね34-12で勝利した。

30年 3月 25 日

記載者氏名 村上 正馬

平成29年度 第41回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

3

男子 ・ 女子 2回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 高砂市総合体育館

チーム名	総得点	9 — 13	総得点	チーム名
岩国工業	<u>22</u>	13 — 12	<u>25</u>	桃山学院
		—		
		—		
		—		
		7mTC		

岩国工業と初戦で県立富岡を下した桃山学院の対戦。桃山学院のスローオフで試合開始。序盤、互いに危なげなく1点目を取得し、その後も互いに得点を積み重ねた。均衡が崩れたのは20分ごろ、警告、退場が続きペースが乱れた岩国工業の隙を見逃さず、桃山学院が攻勢に出た。14番 嵯峨山、8番 薬師らを中心に強いシュートを打ちこみ、5連続得点。一気にリードを広げた。一方、桃山学院の高いディフェンスに苦戦し流れを取り戻せない岩国工業だったが、前半終了直前、5番 白石が素早いパスカットからの速攻で得点し、4点差に持ち込んだところで前半終了を迎えた。

後半開始直後、前半の勢いを保った桃山学院が持ち前のスピードを活かした攻撃で怒涛の5連続得点。対する岩国工業は手痛い退場が続き、後半10分には点差を8点まで広げられた。これで勝負あったかのように思われたが、後半20分ごろ、11番 梅岡の強烈なロングシュート等で連続得点を繰り返し、最終的に3点差まで詰め寄った。しかし猛攻も一歩及ばず、リードを守り切った桃山学院が22対25で試合を制した。

30年 3月 25日

記載者氏名 和田 尚也

平成29年度 第41回 全国高等学校ハンドボール選抜大会

試合番号

戦 評 用 紙

男8

男子 ・ 女子 2 回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 神戸国際大学附属高等学校

チーム名	総得点		総得点	チーム名																		
大分雄城台高校	19	<table border="0"> <tr> <td>4</td> <td>—</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>—</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td colspan="3" style="text-align: center;">7mTC</td> </tr> </table>	4	—	5	15	—	10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7mTC			15	北陸高校
4	—	5																				
15	—	10																				
—	—	—																				
—	—	—																				
—	—	—																				
7mTC																						

初戦を突破し勢いに乗りたい大分雄城台を迎え撃つのは、シード校の名門北陸。序盤は両校 GK がノーマークシュートを止める好セーブで幕を開ける。開始3分、北陸4番西田が速攻を決め先制。続いて北陸は2番谷口の強烈なステップシュートで得点するも、雄城台も3番坂田のシュートですぐさま取り返す。そこから互いに得点を許さない時間が続く。雄城台は決定機を作るも北陸 GK 笹本がスーパーセーブでゴールを死守。雄城台 GK 伊藤も負けじと気迫の顔面セーブを含む好セーブを連発し、ゲームを引き締める。均衡を破るシュートを北陸15番前田が決めるが、6番後藤の得点で雄城台も流れを渡さない。北陸は2番谷口がシュートを決め1点リードするも、前半は4対5という稀に見るロースコア。後半も互いに退場者を出した苦しい時間を、北陸は7番近藤、雄城台は6番後藤の得点でしのぎ切る。後半20分、雄城台が連取に成功し、点差をこのゲーム最大の3点に広げる。終盤は互いに点を取り合ったが、4番大津の要所でのロング、8番小浦のループシュート、GK 伊藤のセーブなどで雄城台が迫る北陸から逃げ切り。シードの北陸は初戦で姿を消す悔しい結果となった。

30年 3月 25日

記載者氏名 山本 紘輝

戦 評 用 紙

男子 ・ 女子 2 回戦 ・ 準々決勝 ・ 準決勝 ・ 決勝

会場 神戸市立中央体育館

コート

県立香川中央	28	11	—	11	27	府立洛北
		11	—	11		
		4	—	3		
		2	—	2		
			—			
7mTC						

本大会初戦となる四国ブロックの覇者香川中央と、1回戦で昨年度の決勝対決を制した洛北との対戦。熱戦必至の好カードとなった。スローオフ香川で試合開始。7mスローで香川が先制。洛北はNo.10石田が個人技で取り返す。交互に点を取り合い、お互いなかなか波に乗り切れない。洛北の高くあがった3-3DFライン、対する香川はDFの間をNo.16藤田らのスピード溢れる動きで攻撃。香川の粘り強いDFに、洛北はNo.2木下のサイドシュートなどコートを広く使った攻撃。前半は、一進一退の展開。GK藤坂の好セーブ連発で意気上がる洛北は、ラスト1分で2点差を追いつき、前半は同点で終了。

後半に入っても、両チーム攻守とも譲らない。香川が8分28秒に両チーム初の連続得点、洛北TO。すると洛北は、香川のキーマン藤田にマンツーマンを付け、連続得点で1点差に迫る。香川はNo.10寒川、No.11谷の連続得点で点差を広げる。さらに藤田の技ありスピンシュートで3点差。このまま香川が押し切るかと思われたが、粘る洛北は21分46秒、No.3竹原のシュートから怒涛の4連続得点で逆転。その後も洛北はNo.10石田のスカイシュートなど連続得点で2点差。27分41秒の7mスローも、変わったGKNo.16荒田が止め、洛北ムード。しかし、試合終了目前に香川No.6高尾のシュートで同点となり、試合終了。延長戦へと突入した。

延長戦もお互いの意地と意地がぶつかり合うような、取られたら取り返す展開。香川No.9木太、No.11谷が要所で得点し、熱戦にピリオドが打たれた。観ている者の視線を釘付けにした、両チームの諦めない姿勢に拍手を送りたい。

30年 3月 25日

記載者氏名 沖野 勝洋